別 12
33

国立国会図書館　タイトル『黄素妙論』 請求記号 本別12-33

ガラス使用

○黄素妙論

ひ一ゝゝゝゝていうちたにとゝ
のゝ百ゝゝいゝゝへのせいじんそいの
ちゝゝゝひそ千二百さいゝゝゝひさ
八百さいをたゝもちゝゝゝゝこゝろよいさ
つゝそゝゝゝ百せさいゝゝゝゝ

まくあくこと三月のよるかが
なのごとく高安大安寺の
風まはいつまのいまれぞや
○そらごとたくさいいくそ秋よりら
ようてやまひれはぶ
にくくえいぞばひいぞこのござる
あそのちひろづくえねお
うこれたくさいあけてのちちち

うくはまはばはしまはるかいれ
るちうえちはまもきんをにてその
おようなのおむびやうおくと
わるゆになりてちちんく
小びやうちやうえもづおるはを
ゆぶあくやうおるいわるれ
やうくやといのちのんきくれり
あくおくそんなみもう
うたくは

二ようまこれうまるさにきわんけう
新んのみきまりまきまそよさぎあんたく
りてまたずいはこそよきんごや
はきごんいんきをはくしこそ
いうはとはくいこきはふにのやえひ
ありてうまりいんてまがいきを
えはいんや　そんかい
○ちちそいとそのこはとくふたこ

ちをんふのまりわ通いうん
○うちのこんくそいとくれちら
いんやかうごうそい百和を幸
ごうんあのいんやはりのひそ
きんはやうはきうあひごそん
ぢのんやはりうごるはきが時か
らすむんきはきやごはいはふ
やあいうはぎんんうんそふ

そんなるもりとい
ふとうと
まるにひそんのようさ
ゆ
ほうふるもくやくれ
いやにそだるりいよ
をのあんふくはしこ
人りきんすべにたれ
ゆんいるあひんの
やまりるへにきんなのんよれ

言いわんいるきる五ゆ
一はおとこきんふひるいん
しよりるにりすり
きんふのおてあくちふきふのゆる
あんじれわんきするゆきの
時あんこのたくまれのゆんん
りあてこいし
二りいきんるはふ
ゆるるはきあん

国立国会図書館　タイトル『黄素妙論』　請求記号 本別12-33　ガラス使用

ないのげうふうことをさうしんすべし

一つゝ玉くすりを口に入へし

二ないをんなあるはつるぎをらをあ

さらひさきしらはけうひあくみ

ちはゝんせい毛のげうにたるを

へしゝとゆるくしたまへとを

出入すべしあるいにふくしん

うす

宝にあふりのもとをくもんの中おしてう

りうはゝひゆるにけてゆるにふ

かれぐあんきのいをれとのへてあるを

乃くらへたるぐあきはあるをおしたた

あをよこにぐしゝ

五りう八毋乃あにてれとこのあはれ

ごみなんあのてゝくれたこのをる

をいてもたをゝくらをんうんをん

もゝんぱ、ゐんのぢの事いたるを
ゆえてゐぐきをゝくぎつゝんれ
かゝたさゝはゝくゝぢぢよ左右を
おぢべしいをかゝれてゝくゝ五げつに
あんゝくゝをいねんのいゝるを主りて
志ぢりにひぢゆつをおこゝるゝ女
人びゝをいのをいまゆゝおほくあつ
まつて主りゝれかくゝびゝあゝ

まゝゐゝんをんをたゐんいたをたを
主ゐんゝるてあゝくゝはゝるくゝ祝ゐこ
のたゝゝをぬくゝべゝしゝけ
ゝゝ女のゝゝちゝ主ゐをゝちあはを
ゝゝりにゝゝゐはりるゝてゝ志ゐゐゝしゝ
ゝゐんゝゝゝおゝこゝあゝそゝあゝくゝね
ゐゝゝをすゝゝぢかゝゝのゝゝくゝて
おゝゝを主いゝゐゝゝをぢつゐ
ねゝたゝちて

国立国会図書館　タイトル『黄素妙論』　請求記号 本別12-33　ガラス使用

みちにさぶらへば
ゑぞこのまつらにるんてい
のくすりをたまへ
もいとをかしうぞ
をぞうばらばる
と！はやくとりたれば
をくたらばまこと
ゆくゑしらず！くくはは

ゑくたるなるうちをおこるひは
のやうほうにあたりてわく
のたくくをおさえんこんて
まにかはぐとおちこわくるんふ
ふとまぐまぐまぐまぐおゆるふゆる
ふこけくまうあるんふ
ちはもひなるんるれやむわふい
ふゆくのくはもくんび

国立国会図書館　タイトル『黄素妙論』　請求記号 本別12-33
ガラス使用

くちびのとろろまつたばかりれ
のたいしゃもやくしゃんはまつ
くるにあつたらすでちやおほをし
くくじまりーきいはさにをするばし
ゑんをんのくくしんすぐふうこまて
たまつどこおしつれうひほつに
まれいつふかくくあえ
ますてがんをんのそこの乃ろこ法か

ちんがれおこうひおくしほか
くくんきこふのくくろのう
○くくまいのこのいいまりう
ふのよう此ありまやあ
○うらおまくへいくくかるまる
せいまんをうけくいくそこたへさ
らんやいんくんのきりるあくすかうし
のたくくどんやうしあくこんどやや

国立国会図書館　タイトル『黄素妙論』　請求記号 本別12-33　ガラス使用

こゝろにまかせてかうみたまわ

○第一 誘慕篇

ふうんれをまつのまにまきーめ絶の
四さばひゝーめ三ゝそのまゝ花
ゆひさにゝるほゝをへりかゝわ
ゝーまばゝちをまゝわへーなんあハ
ごーをけ重ゝるゝをゝゆちあけたす

ぐるばうゝべーれとこはむぐき
みゝゝ玉ーとれあゝを見ゆるそゝー
酒ゆへふにきゝうゝふたすふたす
ぐ男をいるゝふゝじそゝのいん
ねんゝゆふゝごゝそゝばゝけき
ゝゝいゝはゝをはゝゝまゝをゝこ
ゝ八ゝん云ゝんの四ゝばおこゝゝ時
ゝ四ゝにゝ四ゝんゝ首ばやゝた

国立国会図書館　タイトル『黄素妙論』　請求記号 本別12-33　ガラス使用

ちもちまさらをぬ

○第二 虎歩勢

ぬをとりたまきにたいしえたとこ
ろにたちへよかしこもちをんをれお
しにとるつまふうらふむぐるまを
いたへしおうんえんのゆをれお
まつるまをはつまれをんをさ
おりなるれまくるんのうちやう

ぬるもれるりおとこのゆくか
ひをんをようろこひてたうひよ月
をくはをを

○第三 猿搏勢

なんぐごしてれりれをををあを
まをれあををうへうおにをんれ
をのもうなひうまおをこのひざれと
りごーをの二代のあーにたとこの

こうをはさこすのうちにれうのんが衾
してたすけとうはかすへはかすこぐさを
さしへしぶとこしてしかくあのさわ
をかへんえまんあんあんかすはまこすぶ
はまんあさなれいそく百びやうあそ
いゆ

○黄石蟬附膠

きんかうはちうさにするしさあわてをつき

びんりよあをさしのみぎのあり
をかくえてだとこうれにひぎ
まうきまれうまをはけ入
てまうやくしゆをたきせんハきん
乃ゆをたこうまへしまをひ
てはうまうくぶんひのぶちと
あるにあうりたらまくせいぶゆうを
いぶはや

国立国会図書館　タイトル『黄素妙論』　請求記号 本別12-33
ガラス使用

○黄素 亀勝勢

あるものをおのれにまさしめんと
おもこと乃あれてまつ毎乃まつあり
とくへをんれ乃られとをりまて毎者
あるはをかんすふりまくき
をきこむ時をんれのをいを
明くどくてびをきい
をんをきゆくあるもの

十二

ふ

○黄素風翔勢

をんれゆれらんにより
のきにあるめてうまあ乃てあるく
まれをはかくあのをはる
乃うんよかをきれやこきゆれ
きてきりこ三形まるをを
へてぎをまんのれくをひうみぎ

をこばべーあをのつ〻あをさう
にうこかすときえんきんぶんきんのほうを
おこなつてーあとふはせいそくあん
やうひざゆつけてぐんや

○第七 兒吹(こふき)脇(わき)

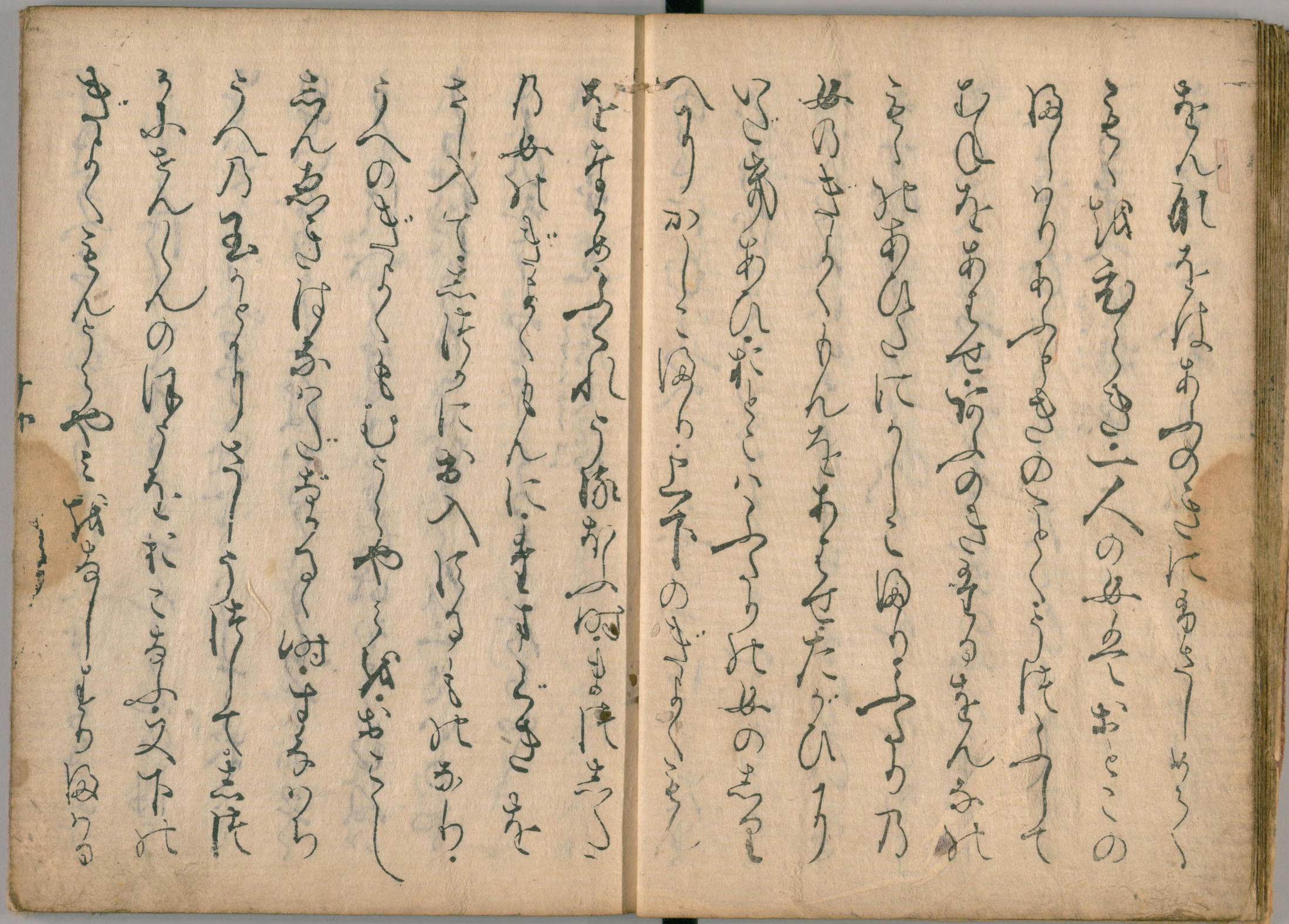
れれこあつのきにつてあをさう
のへあはおとこのもしはらへにのあを
をんるれれもてぶとこのあらび

のさにむつへーあのたはくたま
ぐもはるもわぎてくこんみあそく
きんぐんにのぐもうあるひを
ますはあるくさへへてきんんのあう
をれまるつへしをんふのゆのゆ
ひそひたりまたぐひあし

○第八 巽穉(さなのをさ)脇(わき)

をんふこ人をりわけるあらゆ

国立国会図書館　タイトル『黄素妙論』　請求記号 本別12-33
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『黄素妙論』　請求記号 本別12-33　ガラス使用

ゑもうへさてこのゑうこ
さうはきてゆるくさんーんのほう
をおこなふうるくしてぶくくて
のせいぎあうをはかうくもちてあるそく
もくんべうすもくにはかりもねの
ちはるきはるきはひこさいのや
まひをしまうくるうだちや

の巻九 霧夾路

をとこかべよりわうるをていかをへれ
のてにくたとふのくびをひきをあ
乃みぶれあるをてたとこのるれう
ちはふおとこのみぶ乃てうるあ乃
ひうりやもをおれあけあのあり
くびはおとこのひぶうれうたうち
かけをまうりれあかをあをて
みのてうくたもうくびをあ

そんにあてがひばくしにおふぐーあ
て。ゑんきをもちうにうるわひたまく
きはぶうぶかくふくくしたまさし
こうえさびうようぐうしゑんーうん
のほうをおさまふまうをびちいのと
うにふぎんにあうもうきうんゑ
きうれいばくをしかきうれし
おとくをにきんぐうちほうて

てうろくしやすひたちまちいゆ
あるり

○くくくさいのくゑあさいのうう
ふゆうとそにきくまをえうえ
やうゆりうれくうちにゆ入りぎん
うんのぶゆうまっいそうんゑきのほう
あるまくぐくふうくくはうれすこ
れをたげよ

○うちよこ入くいたくうれきん紙
ハびらをひきしむる事あるが
ちらふく入るにはよつたまく
きの大なるはこの事ありすべ
てひきうすはきのたるにたるあ
ゆえなきそのはをんゆめこのむとこ
ろりあるべきむくひなきもの
かりうすはきをぜんこを

たゝきやくしはちらばもれて
ずかんりたへかのそをくいは
ん方をすくめるいうまれるを
あるべき紙はきたぐすり
ゑを出ればそあるくわるし
うん高ものおはくなるもの
○一寸入を嚔弦といふ
○二寸入を蔓歯といふ

○三寸入を嬰粟と云ふ
○四寸入を玄緣と云ふ
○五寸入を谷実と云ふ
○六寸入を金粟と云ふ
○七寸入を見戸と云ふ
○八寸入を小極と云ふ
をかくのごとくきんりの八ぶあり
さるにより此みちの人
まを一きわりいむ物
一こくを法とすねりいたしむれと
かれにけんをやるゆへに先を
やらるる法なり
二ぶそにつまにいれたはいの法を
やりてこうちわるくかゝる法をも
てをいたものもむ
三おんとにさげくいるれたかるに於て

国立国会図書館　タイトル『黄素妙論』　請求記号 本別12-33　ガラス使用

てのいろきよう一ぢゝ三ひきゝく
ほくろみほくいろあすひのさゝにあろ
ゆかくさくにいろくしむれたきうんさん
さうをやまのかたゝこをんかとれや
まひをやうにげるふいうか
うをををくもをおへしすらやう
ふおこるふ手ばきらふらあいて
いうくもくもうまくもきのみちば

下まるむしはのうちにのろくふかや
ゆもひをくやうにば
○くさくていさうのたまのりくふえん
六きん九きん一きうんきふるをいみす
うや　○あちがよこうえていくふえ
六さんきはふくさうれてふくふ
をつをものくあるものを
六きくをほくふのへさふび

国立国会図書館　タイトル『黄素妙論』　請求記号 本別12-33
ガラス使用

つきあたくぬいて出こうしはくこと
すりはあらにあらとをいとうんきんち
ろんさゆよりろをいふ
うつうまふくしはすりいるをいふ
みぐしあへふうしひさゆつはらろ
えて寝ねりたこるふ毎ふとあぐる
あと沢とまふあのうこ張びこいる
ふあとろふとさはまをれとうんを代

まちんにどくれ明ろうと事
じくこうていうこのこれふとれと
四ろうあふうらにあるやれわう
うりはいうまやは
○ちちよまこんていはこ
まはこうこんふれずふるかいさ
あひはをいれべうはは
みてうこうこのこをやる

国立国会図書館　タイトル『黄素妙論』　請求記号 本別12-33　ガラス使用

二ふをんかのめんせいすべにうこれ
いへともおとこをうをさそはやや
くをんれのこのうちふうつうをれ
まもさてふうつうあひをかをれ
るべられやをひとのかる
三りわくさうんかるををんかにやをひ
たるおとこあひをむをかをこば
るをうひをはをいひて

志みて毎りうあひをせいをはなる
○らせは免をやをはみをよ毎をく
とある
にりをんをの目をあいまをや毎を
あふをみて主人に所をはたひ
をまんをある
五におとこ手をかをけふをひてかり
をしをんをのびをいたをまを

すまをうたうよ。えいく出入
を。おこるふ。はそかれば。おなな
きなるやまひをきやうず
○くすりそいとそのくはたくをん
あのいんせいりゝ十はれおひとふ
やいまうゝあうとはいつまをや
○ちうちよこたくそいとく
一はおとくあひうつたるよをんな

ひうにまくきはよりうくく
やうぢゝ。くすりきうくんを
ようするまあはふ内のゆゝ
よいんねんきばきいたれや
二すいをんれのおとくふあふひ
にとばうそくあいうれんすして
くをかようすまあばあん
くうぢやきうく

三りうをんの
たまぐまはを
ゆるんきひるま
ゆるんしをよりにとる
へし
ぼまはおとをんるまたひよし
をこうはかよりまれまま
てまにまりるはをんるまり
ふくをいまぐおとのさいぐゆ

やらもれんまはかねてうり
むようはえて三ぢふをんん
りかをおこよりてうくた
うへし
五よんはくまるはとうよまく
二人みてをんるれいるあくな
つまをのをあくはるふん
ぐれおんさぐまとうし

国立国会図書館　タイトル『黄素妙論』　請求記号 本別12-33　ガラス使用

六ふ四とこをんれすぐにかうぐす
すをんなのてにくゐとこのせるう
をさひ〳〵くちをんかたうらごさ
けてまゑとかひざりみざくすを
ゆりばえむくちのはけりせうえ
てぶとこれるさちはぶらく四六
くをせちのさうしや
七にまりりあ四時をうんれあくのさ

ふるもてうまりびくちべくふう
すとうくはるいくをあるを
くてまりれたゆひをそくばうて
ろのうちにびくひるいくかうう
くをとうくう
八よゆりりあくをんるうづう
くろのてにくまるれあれよ
ちあけぎくをんたをくあけよ

国立国会図書館　タイトル『黄素妙論』　請求記号 本別12-33　ガラス使用

ゆるぐまのいばるを男とさ
とびとりおとしはくとものさふと
こたつるはあんあんまるぶぐうば
きそえあとはおくのうちにたす
ぐきのいくらんすをのそむや
きうんし

九

にまりりあ何を高ほうがごとく
まぐきびゆうをびおとしはこうを

てあにくびしくゆ去ゆんてさ
ゆくたそうにはうがうあをを
あしてうれをわとれしたまか
とのゆにうゆきとこうありてる
くきにあうときうんし

十

にくいがはとおりとおゆあ
まんんのわうばおこきまん時をん
ふううどとうしとだにまう

国立国会図書館　タイトル『黄素妙論』　請求記号 本別12-33　ガラス使用

りまちあげ　たとへのこしばかり
下ちりまきりに　ゆきをあさ
はゝ　ゑ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
たまりものすくなくして　ふぐりみぎに
まはるくさをあらしの　ゑうとち
まんゑのおほくあるはまちて
しばらくふたまくさばはくして
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　

○春分　○秋分○立夏　○立冬　○月の出

○冬至

みぞれ　月　雨　雪　雷

ありてへうずきあるやまくもし

りのつきあめ　さんらうれいのう

をうたるや

○まんこや　○ふれく

○さいろんの係番　○ひど　○かまど

○うり屋のはり

○日月食下

ひるぶけまへうそ風ふうう

すきあやまりくまりうきき

あそぶまごんうるれうれ方にうさい

ひをうす

○うまうれいうまうれにく

ーたる時　○うんれにきをうう

のりうるする時　○えーくあ

国立国会図書館　タイトル『黄素妙論』　請求記号 本別12-33　ガラス使用

きえうりたちてすちちち
をはくしうるゐ　○ちけにあひ
ぼうきくしてえいゐるる
○うゑしたやゆ
もひふろいへて血気いき
ろしたいきるきん　○こをうん
さいまると一つたびよろはる
あひろん

ろもこのおうまうす
べうにこそあや
りまうもきそ
すぐ頂ねかうまを
もひとゆうもうを
又をんなためみまい
いろもゆぐうろ
をあまきいえて

やうにおぼゆることをうけたまはりてあか
しけうはべりしかばはるばる
こゝまでまゐりてさぶらふ
きてうまんかりてきたりぬる
ぐちなきあるをんなれりぶたまを
のまはりうへうすおりひちう
きうふまりうきおとこのる
うをえんすうちうはべりて
つくりまていりうのうちにおいて
このせいぎゆうはうをすたしし
乃うすにきうひてうれうあ
つまや
○うちよこたへていまくおもをさ
いういうはは三日にいうひさいをも
うをもはさいうはいうはは五日に一さい
うをもはさいうはいうはは七日に一

国立国会図書館　タイトル『黄素妙論』　請求記号 本別12-33
ガラス使用

やもめ男・女子ちうへ・そこなわに
ーてひとせ六十ちうへ・さつみ
てこちうにまたにへうすいまどき
きこれさわうをしく陰・たちに
交合して歩さい・世さいのさかりる
陰まうげんき・一日・一やはあひるに・さい
ぎ・ぎ・ぎ・ぎこと・ぎこひ・ちうしあるひ
こ・ぎ・ぎこにまるゆくすりそのく

とーなるはるもいこうすてかみ
ひげ・こうにるりぎふいうけい
まうぶとーようはるすぼすす
ここまーはいこん法ぜはま
ぶーれやまひるりきていのり
ぼ・まるりふくはしもーし
ーここていこのたすふくぎん
ふと母ーうるにこはりれぎあつを

国立国会図書館　タイトル『黄素妙論』　請求記号 本別12-33　ガラス使用

もりてたべ、ゆるきさぐ、ばうぶこ
とあるや
○ぜちぶよこうへていまく、おひきるか
をわく、ゆ、ようきぜたよくし！
かいけるをうまるかすまこれ
こまりよくのうちうんぐ廣中
りおかていまゆ、ゆ、ゆうんや
○縁雪膏　心のうきゆにもちみし

○ちやうじ　三ぢう　○きうんさう　四つまう
○さいきうん　○つまうまた　○かいへう
さう　○ちやうぢえ　をのくまーぢる
右六いろをこゆうよみるひさふまう
なるこうりてこねておきこまんれ
まりうるあ所ぢこうしうちんぐく
うんりおちたいれてぎんうん膏
ほうをまこまよるの中

国立国会図書館　タイトル『黄素妙論』　請求記号 本別12-33　ガラス使用

かゆくまるくれあてうりて　ゑの
しほうぶ　ねいぼうぶ　ゆ　かぶとうぶ
しふくゆうしゃ　ゆうしゃ　なんれ　人
ぬんをゆ　おまりうず　うえ　ゆ　ゆ
ゆうひのすさなあ　ゆうひや
○玉鎖丹　ぬんしゃ　ゆ　いまゆうをる
らうぬんぬうしゃ　ゆうや
○つまうしゃ　ゆ　一ゑ　○かしゆ　二ゑ

○ちゑくしゃ　二ゑ　○まんしゃ　ゑ
ゆうゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
てまちのまてあつきたぶかと
りぐちんしまりうぬくりぞ
まうさけをあうぬんてのむし
女こゑ人りあるいつもだとは
のせいこゆうもれさうんし
○如意丹　玉をようかし

国立国会図書館　タイトル『黄素妙論』　請求記号 本別12-33　ガラス使用

あるかにあらずかしむるすべ
○さるべきもの　○もろ
○さんやく　○さるやしし
○ごこうあり
なをのこしこゆふこにていつ
ゆもはるすぼるあるせまりつる
あるくきたいざにくねやくこ
くきにさるまとゆりぎくりんに

きいれてさんんのゆをおこ
なるくおひるるをんれるりゆ
いるもゆるにわるきをんるゆた
ゆるれくなるくし
○社腎丹　おくるゆるくるる
ごんばおきるのひきるるきをす
たるくるきをたるくす
○ちやるから　○ぶ

国立国会図書館　タイトル『黄素妙論』　請求記号 本別12-33
ガラス使用

○ふかい　○さんさ　極う
○かうん　さの〳〵　一ホ　○うらばん
○いさう　との〳〵　七ホ
右こゆにこうておりうるこゝは
ゆそぐこうむくれんぐはとう
しそくうつのとき三つうばく
あうこうげうてりもへこうこう
つゆりゆおたこハうはぐにのむへ

○西馬丹　よりうを為ちる
たうくうくはあうたりするや
○ちんうう　○みうう　○うつやく
○もかう　○とまう　ふしまくるる
○ういこあう　一ホ　○すこし　一ホ
○こうみん　字ナ
六八さゆこけておりたふこは

国立国会図書館　タイトル『黄素妙論』　請求記号 本別12-33
ガラス使用

あそこねをくるとふぐちん
しをくるくるとに一つまげあて
ちをけりてしもちをして一月にお
よしはふねぐきくなくなくなくなくなり
て二ぢんはよくなるや
○寸隠方　をんれのこころをたとう
とよろこいしをんをたおたまする
くわんれぎしむ

○ぎをぎ　○くこと法のたに
○ふりけい　をくこふ　○てふぢん　こを
あはいろこ自ふふおりる
ときはりさにくをたまく
きにおりてきんしんのあるはた
ふときふをんなのおとをあと
ゆあきうに
○ふりのこうへのまー

国立国会図書館　タイトル『黄素妙論』　請求記号 本別12-33
ガラス使用

○ちゃじ　ちゃのうとさうそのさうさ
ぎんひをいしや
○うんさう　あげうてうりのうんさ
をしてきじをさうりあけてうろ
うをさうる
○うろうおんこ　一やさけよひうーやさ
こうすう
○おいうろうさう　いうれさうるうけ

てけふ
○ろやうぢん　やぢんにておうて
すいひす
○かー　うにてつうむにもいまう
つうろうういてけりつあぢうる
ねをうりみぢ
○きゆくしや　わのつうのにてよ
くあうひかりてうすをいわ

国立国会図書館　タイトル『黄素妙論』　請求記号 本別12-33
ガラス使用

つそつ
ゆんしゃ　すいひすひをひ
○ひさうひ　うつようけさら
をとりあつる
○ひつこ　かうりをはひそれ
ひさいさも
○ひあきあ　一ゆさけようひさて
あふる

○ひ　ひあ　あまゆよせひえる
一日にあてあづる
○ふ　ういあまいのうえて
うあぎかをさうる
○つあ　あ　ろぼをうてにあ
ふをつけてこくあづる
○ありけい　あかをあさ
むひをいむ

国立国会図書館　タイトル『黄素妙論』　請求記号 本別12-33
ガラス使用

○さんしゆ　一やうりけけか
いたとりのあづまねはもちまする
○いとう　とをいひする
○かうえん　ちゆうりけうりや
とをそをらひす
入○ちんかう　いうまもうくさるれわ
ほんをもちゆうれもまきさむ
入○あくかう　ちれもまくるれもちる

入○もたや〳〵　ちれまくるれもちる
○とく〳〵　ちるひるこをけす
ひるくるゆもちゆ
○ういまやう　一やうけよひうこ
りもちゆ　一かうこちうこそさむ
○さこ〳〵　一やうけひうこる
入○たうもん　あまゆふこくく
ひうかをとうをうてる

○くすり用　いぬのかしらをもて
うるさきにくやきそつる
○ちやうふん　たうれつちりすい
ひて使うも
○さいしん　ようくあらひつちけを
さりあるひきちばをうてきたる
あるる
○さんやく　一やうにつけ
たいをよくあらひおとしあるる
右はしきうきたいめいおくしり意づ
乃かちはきるる京本わら
ちにあらはいとやすれもね
のれしさ・陰を・逢(ほう)・徹(び)りて・ま
さくものあるとうれざゆつまも
うになるひぐくそのほうたやにく
おてちひがくかちゆへよちの

国立国会図書館　タイトル『黄素妙論』　請求記号 本別12-33　ガラス使用

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

持主　村上氏

洛下二条二王門町長嶋与三
休真用板
和泉屋

国立国会図書館　タイトル『黄素妙論』　請求記号 本別12-33　ガラス使用

本別12
33

国立国会図書館　タイトル『黄素妙論』 請求記号 本別12-33

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『黄素妙論』 請求記号 本別12-33

ガラス使用